

## 研究紀要の発刊に寄せて

グローバル化の進展や ICT 環境の整備とともに急速な進展が予想される教育への AI 導入など、学校教育を取り巻く状況は大きく変化しており、教育を担任する教員にも幅広い力量が求められています。このような中、教育公務員特例法の一部改正を受け、本県でも教員育成協議会を設置し、教員育成指標を策定し、これに基づく新しい教員研修計画の実施が進んでいます。当センターは、平成 7 年 8 月の開所以来、学習と教育の中核的存在として、新しい時代の人づくりを目指し、高度で専門的な研究を基盤とした質の高い研修の実現を目標に掲げてきました。特に、教職員の資質向上と学校が直面している教育課題の解決とに向けた支援をミッションとして、センターを構成する各課を中心とした研究も重視しつつ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習方法・指導方法の研究や教員育成指標に基づく新たな研修カリキュラムの開発など、所員の校種や専門教科を超えて、組織を横断して編成したプロジェクトチームによる研究にも精力的に取り組んできました。

本年度の研究紀要には、研究計画の完了年度にあたる 3 件、教育相談課「不登校の相談事例から見える「未然防止」「早期発見・早期対応」についての研究－教職員の観察する力を高めるために－」、小中学校支援課「新学習指導要領に向けた教科固有の「見方・考え方」を働かせた「深い学び」の授業改善に関する研究」、教員の資質能力の向上のための研修体系開発プロジェクトチーム「教員の資質能力の向上のための研修体系開発に関する研究」について成果をまとめて掲載しました。いずれも、喫緊の教育課題に対応したもので、教職員をはじめ、学校教育に関わる皆様の要望や期待に多少なりともお応えできるものと考えています。当センターでは、今後も研究と研修の一層の充実を図り、本県教職員の資質の向上をとおして、未来の創り手である子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。

本研究を進めるにあたり、御協力をいただきました学校並びに関係機関の方々に厚く御礼申し上げます。

令和 2 年 3 月

静岡県総合教育センター  
所 長 塩崎 克幸